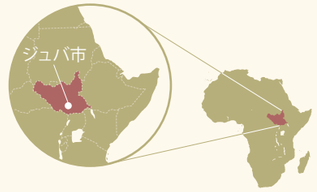
from South Sudan 南スーダン

国づくりを象徴する希望の橋

2011年にアフリカ54番目の独立国として誕生した南スーダンは、長年にわたる内戦の影響により、インフラの整備が立ち遅れている。国際社会が一丸となって同国の“国づくり”に取り組む中、日本は自衛隊とも連携したオールジャパンによる協力を続けている。



平和と安定のために自衛隊と連携する意義

南スーダンを流れるナイル川に、新たな橋を架ける――。2012年に日本の協力の下に始まったプロジェクトは、本格的な工事が始まろうとしていた矢先、紛争の発生により中断を余儀なくされた。それから約1年後の昨年3月、多くの人々が待ち望んでいた建設工事がようやく再開された。

起工式には、同国の大統領や大臣らをはじめとする400人以上が出席し、注目度の高さをうかがわせた。そんな中、躍動感あふれる和太鼓の演奏で会場を沸かせたのは、日本の自衛隊から派遣されている隊員たちだ。実は、彼らはさまざまな政府開発援助（ODA）事業と連携を図り、同国の〝国づくり〟を支援してきた。

長年にわたる内戦を経て11年に独立を果たした南スーダンでは、国内の政治的な混乱の解決が大きな課題だ。「平和と安定の実現のため、国際社会全体が協力して取り組む必要がある」という考えの下、日本は同国に自衛隊の派遣を続けており、現在300人以上が活動している。国連平和維持活動（PKO）とODAの連携が始まるきっかけとなったのが、JICA事業として首都ジュバ市の浄水施設の拡張などを支援したこと。

建設が進む新しいナイル架橋。南スーダンの経済成長につながることが期待されている

自衛隊と連携してジュバ市内の道路の補修工事を実施。自衛隊が所有する重機を使用した

新ナイル架橋の起工式で、和太鼓の演奏を披露する自衛隊の隊員たち

その際、予算や技術不足の問題を抱える同国政府に代わり、自衛隊が老朽施設の撤去作業にあたったことで、予定通り建設工事に着手することができたのだ。

ジュバ市における道路の維持管理能力を強化するプロジェクトでも、PKOとODAの連携が実現した。南スーダンではほとんどの道路が舗装されておらず、雨期には至る所で冠水が起きていた。その背景にあったのが、国内の幹線道路の整備を担当する運輸道路橋梁省（MTRB）と、ジュバ市内の道路整備を担当する中央エクアトリア州インフラ省（MoPI）がぜい弱であること。そこで、このプロジェクトでは両省の人材育成に主眼を置き、道路の点検、設計、維持、修繕工法などの技術移転に加え、道路行政に関する政策やマニュアル作りを支援することになった。

土のうを使用して道路を修繕する様子

復興を支える生命線技術を伝えながら整備する

「当初、MoPI職員のモチベーションの低さに面食らいました。背景には、給与の遅配や、予算不足により職員が工事の経験を十分に積めないといった、国の構造的な事情があります」。こう話すのは、プロジェクトで施工管理に関する技術指導を担当した、開発コンサルティング企業勤務の梅田典夫さんだ。梅田さんは、職員の意識を高めようと日々説得を続けながら、道路の品質管理や施工管理の技術やノウハウを伝えた。また、自衛隊の隊員たちもMoPI職員と協力しながら、地盤や排水溝の整備などを行った。そんなある日、職員の目の色が変わる瞬間が訪れた。「完成した横断歩道を地元の子どもたちがうれしそうに渡っている姿を見てから、彼らのモチベーションが上がり始めたのです」と梅田さんは振り返る。

道路インフラの整備を国の経済成長につなげるために重要なのが、新ナイル架橋の建設だ。ジュバ市から、ウガンダの首都カンパラ、ケニアの首都ナイロビ、さらにケニアのモンバサ港までを結ぶ国際幹線は、復興を支える生命線とも言えるが、ジュバ市に至るにはナイル川を越える必要がある。ところが、ナイル川に架かる橋は一カ所のみで、老朽化も進んでいる。物流や投資を促進するため、また、人口増加のペースがこれから加速すると見込まれている同市内の交通渋滞を緩和するためにも、新しい橋の建設が急務となっている。

現在、2018年中旬までの完工を目標に、総延長560メートルの橋の建設が進められている。常駐監理者を務める梅田さんは、「現場の地質条件は予想以上に難しい」と話すが、施工業者と協力しながら工程の効率化などに取り組んでいる。建設にあたって約200人の現地スタッフの雇用が生まれており、梅田さんは、日々の業務の中でスタッフに対する技術移転がきちんと行われるように心掛けているという。また、市内の大学に通う土木工学科の学生を対象に、実際の建設現場を見て土木技術や施工方法について学んでもらう研修機会も設けている。

トンネルの開通や水路の完成など、さまざまな国で心揺さぶられる場面に立ち会ってきた梅田さんは、「架橋建設の進捗状況やその日の作業を考えると、毎朝起きるのが楽しみなんです。橋が完成した達成感を味わえる日が来るのが待ち遠しいです」と語る。

世界で最も新しい国の平和と安定のために――。応急的な復旧支援を行うPKOと、持続的な社会の実現を目指すODAとが一体となった、オールジャパンによる国づくりが進められている。

ナイル架橋の建設現場には、地元の小学生たちが社会科見学にも訪れる